

調査・実践報告

中国の大学院における通訳翻訳教育

－ MTI コースにおける日中学術・教育交流の可能性－

The Master of Translation and Interpreting (MTI) Course in China:
Exploring the Possibility of Communication Between Chinese MTI Courses and
Japanese Universities

平塚ゆかり*

Yukari HIRATSUKA *

Abstract

The master's courses of translation and interpreting (MTI) were established in 2007 in China. The author attended the Asia-Pacific Translation and Interpreting Forum (APTIF) which was held in June 2016 in Xian, China. The author paid visit twice to the translation and interpreting course of Beijing Language and Culture University in August and November, in order to conduct research into the Japanese-Chinese interpreting course. This article shares the research results, which describe the present situation and issues of the MTI and the possibility of a future partnership agreement between Chinese and Japanese universities.

Key words

MTI、日中通訳コース、教育交流提携

Master of Translation and Interpreting (MTI), Japanese-Chinese interpreting course,
Partnership agreement

1. はじめに

中国は2006年に翻訳通訳学士学位 (Bachelor of Translation and Interpreting, 略称: BTI) コースを導入した。また、2007年には翻訳通訳修士専門学位 (Master of Translation and Interpreting, 略称: MTI) コースが新設され、この10年間、中国全土で理論と実践を兼ね備えた通訳・翻訳

の人材育成が行なわれている。

MTI 導入から10年を迎えた2016年、筆者は研究調査のため、2016年6月17-18日に中国西安で開催された第8回アジア大洋州翻訳フォーラム (通称: APTIF) に出席し、基調講演、外国語大学学長による円卓会議をはじめ、大学通訳翻訳修士 (MTI) コースの運営方法、

* 順天堂大学国際教養学部 (Email: y-hiratsuka@juntendo.ac.jp)
〔September 18, 2017 原稿受付〕〔January 29, 2018 掲載決定〕

教学モデルに関する研究などを討議する分科会に参加した。また、2016年8月、同11月に北京語言大学高級翻訳学院を訪問、現在北京語言大学で行っているMA、MTI日中通訳コースの授業に参加し、講演する機会を得た。同時に、担当教員への聞き取り、通訳演習の聴講を行い、翻訳通訳教育についての実地調査を行った。本稿で筆者は、本調査結果をもとに、中国における通訳翻訳学教育の現状と課題について述べ、中国MTIコースにおける日本の大学との連携協定を含む日中間の学術・教育交流の可能性について言及する。

2. MTI導入の背景 - 「翻訳サービス(サービス)規範」の制定

中国国家品質監督検査検疫総局は、推奨国家標準(GB/T)として、翻訳サービスに関する中国の国家標準を2003年に制定した。「翻訳サービス規範 - 翻訳 (Specification for translation service - Part 1: Translation)」GB/T19363.1-2003である。2006年9月には「翻訳サービス規範 - 通訳 (Specification for translation service - Part 2: Interpretation)」GB/T19363.2-2006を制定し、同年12月から施行、2008年7月には2003年の翻訳に関する標準を改正し、新たに「翻訳サービス規範 - 翻訳 (Specification for translation service - Part 1: Translation)」GB/T19363.1-2008を制定、同年12月より施行した¹。これらの推奨国家標準は、名称こそ「規範」と命名されているが、内容は「倫理規定」と同義である¹。この国家標準には、通訳者は以下の条件に合致せねばならないと規定されている。

1. 国が定める部署の発行した通訳資格証を持つ者、もしくは相応の通訳能力を備えている者
2. 通訳訓練受講経験者もしくは現在の受講者
3. 職業道徳を備えている者

通訳に関する推奨国家標準が定められた2006年に、中国は先述した翻訳通訳学士学位(Bachelor of Translation and Interpreting, 略称: BTI)コースを各主要外国語大学に導入、翌年2007年に、翻訳通訳修士専門学位(Master of Translation and Interpreting, 略称: MTI)コースを新設した。MTIが導入された当初、コースが設置された大学は15校だけであったが、10年あまりのあいだに200校以上の大学がコースを設けるまでに発展している(平塚, 2016, p.166)。広東外語外貿大学学長の仲偉合によれば、2013年11月時点で中国全土のMTIコースの在籍学生数は20,257名に達したという(仲, 2014, p. 40)。現在、通訳翻訳に関する国家標準が定められ、時を同じくして、国家が通訳翻訳養成をひとつの専門領域、学術領域と見なした上で、その専門家養成のためのコースが大学院に設置された。

2015年に翻訳サービスの国際標準としてISO17100が制定され、日本通訳翻訳学会など学術界や民間の通訳翻訳業界でも注目され、関連セミナーが開催されているが、通訳に関しての国際標準は2017年8月現在、継続審議となっている²。

中国では、あくまで独自の標準、また強制標準ではなく推奨の標準ではあるものの、翻訳通訳サービスの国家標準が9年も前に制定され、通訳翻訳者の育成に関しても、国家レベルで対策を講じたうえで、大学を中心拠点とした通訳者・翻訳者育成が行われている。

3. フォーラムの内容報告

2016年6月に西安で開催された第8回アジア大洋州翻訳フォーラムの席上、基調講演を行った北京語言大学共産党委員会書記の李宇明によれば、中国では2011年時点で通訳翻訳サービスを提供する業者は約4万社にのぼり、その取扱総額は1576億人民元³となっており、中国において通訳翻訳サービス産業は巨大な経済効果を生む存在として着目されているとのこ

とであった。また氏は、現代社会のニーズに照らして、学校、社会全体でより一層通訳翻訳サービス従事者育成への取り組みが必要との見解を示した（平塚, op.cit.:pp.166-167）。

本主張を象徴するように、フォーラムには中国全土から参加した大学教員、研究機関の研究者など学術界からの参加だけではなく、多くの産業界、地方自治体職員など通訳翻訳のユーザーも多数参加していた。一方、日本からの参加者は筆者を含め、大学教員が3名参加したのみであった。参加者名簿によれば、日本の産業界からの参加はなかったようである。本フォーラムは中国語で行われたものの、中国語を介さなくてもプログラム内容を理解できるように、参加者の利便性を考え、基調講演、さらに主な分科会でも英語の同時通訳サービスが提供された。また、英語を使用言語として行われた分科会もあった。

平塚 (ibid) でも言及したが、本フォーラムの報告内容は多岐にわたるものであった⁴。北京外国語大学、上海外国語大学、広東外語外貿大学、天津外国語大学、西安外国語大学などの学長による特別セッション「国家戦略と大学間の協同イノベーションセンターの構築」(Special Session: Universities Presidents Forum: National Strategy and University Collaborative Innovation Center) では、それぞれが独自性を生かして今後の通訳翻訳プラットフォームを構築していく展望が語られた。また、機械翻訳、AIなどの先端技術と通訳サービスについてのセッションも活発に討論が行われていた（「最新技術と翻訳人材育成」Translator Training of and with New Technology, 「テクノロジー世代の通訳及び通訳教育」Interpreting and Interpreting Studies in the Technological Age, など）。

今回筆者がもっとも注目していた分科会は、「MTI コースの運営方法、教学モデルに関する研究」(Studies on Translation Courses and Teaching Patterns) であった。

MTI コースは先述の通り、2016年時点で

200校以上の大学がコースを設置しているが、2万人もの院生を育成するカリキュラムがどのように運営されているのか、現状を理解するため本セッションに注目した。

また、MTI コース設立10年を経た現在、以下の問題点が指摘されている。

1. 教員の質と人員確保
2. 授業内容の質の安定が保たれているか
3. コース終了後の就職先の確保

何剛強 (2016) などの当事者である通訳翻訳研究者からはMTI縮小論が提起されるなど、『中国翻訳』『上海翻訳』⁵への投稿で問題提起が頻発しているため、現状を理解しておく必要性を感じていた。

本セッションで実感したことは、現代中国を端的に示す4文字キーワード、すなわち「城乡差距 (地域格差)」そのものであった。本セッションの前日に行われた外国語大学学長特別セッションでの各学長の報告では、北京、上海、広東、西安などの大都市における大学においては、BTIからMTI進学までコース運営は順調であるとの話があったが、しかしその一方で、地方大学においては、教材開発の問題、条件に合った教員の確保などの問題に追われ、試行錯誤でなんとかコース運営を行っている姿が浮き彫りとなった。

また、2日目のセッションで報告を行った北京語言大学高級翻訳学院副院長の許明副教授を通して、北京語言大学大学院で日中通訳コースを担当する吳珺副教授を紹介された。後日吳副教授にアポイントを取り、後述するように北京語言大学における通訳教育現場の見学、調査の快諾を得た。

4. MTI コースの現状と課題 - 北京語言大学を例として

北京語言大学は中国教育部直轄の重点大学であり、周恩来総理の発案で創立された大学とし

て有名である。1962年に設立、当時は単科大学であったが、現在は総合大学として数多くの学部、院を有する大学として発展している。かつては海外からの留学生に対する唯一の中国語教育機関としても知られていた大学である。日本の政府開発援助資金で中国の大学で初めて同時通訳ブースが設置された大学でもある。

現在日中通訳コースは2年制のMTIのほかに、3年制のMA(翻訳修士)コースも存在する。必要単位、取得科目も多少は異なるが、現場の講師陣は、「MAの場合は3年かけて実践も研究も深化させることができるが、MTIコースの場合、2年間でほぼ実践を行い、論文を書き上げる必要があるため、時間的負荷が高い」との認識を示していた。今回筆者が聴講・参加した実際の授業は、通訳実践の授業であったため、MTIコース、MAのコースの学生混合授業であった。

以下、現在の日中通訳コースの現状と課題を紹介する。

4.1. 通訳教材

MTIの教材は外語教学与研究出版社より「全国翻訳(通訳)修士専門学位(MTI)系列教材(MTIシリーズ教材)」として、これまで数10冊もの教材が作成され出版されている。おもなもの『逐次通訳』、『外交通訳』、『英中サイトトランスレーション』など数多く出版されているが、主な言語は英語-中国語である。実践教材だけでなく、通訳理論も網羅しており、理論と実践の双方から学べる内容となっている。しかしながら、現在下記のような問題が存在する。

まず、日本語の難度の高い教材が非常に乏しいことである。日本でも市販されている通訳教材はほぼ英語と日本語間の通訳を題材にしているが、中国でも同様の問題があり、教材の大半は英語と中国語間の通訳教材である。

もう一点は出版された教材は、書籍の形式をとっており、内容の頻繁な更新が難しいため、当時のホットトピックを扱っても数年後は内容

が時代遅れになることがある点である。実践現場での通訳は、さまざまな業種の最先端の内容を訳すことが多いため、通訳教材も出版年度では最先端の内容を組み込んでいるが、数年後には内容だけでなく、用いる語彙さえも時代遅れになることがある。そのため情報の更新が欠かせない。

それゆえ北京語言大学大学院日中通訳コースでは、講師自らが適切な動画素材を教材に加工するなどして、最先端の教材確保に努めていた。この点は、日本の民間通訳学校と同様であり、現在のMTIコース運営における通訳教材の確保に苦勞をしている姿が伺えた。

今回筆者が聴講・参加した実際の授業では、日→中訳の授業が金融フォーラムのスピーチを、中→日訳の授業が、Podcastの文学に関する動画を加工して教材としていた。

英中教材が出版の中心となっている理由は、MTI教材作成に関わる執筆者がほぼ英中通訳の研究従事者であることに起因する。「一带一路(海上及び陸上シルクロード政策)」を推進する中国は、多言語サービス化を展開する方針が国家施策として示されているが、MTIにおける多言語での教材提供をどこまで行うのか今後注目したい。

4.2. 講師陣とカリキュラム

中国国務院は2007年のMTIコース導入の際に、本コース担当講師は、以下の条件を満たす必要があるとした⁶。

- 1) メインの授業及び重要な必修授業は、必ず2名以上の専任の講師を配置すること、豊富な教育経験を有し、教授もしくは博士学位の取得者の割合が一定数を満たすこと。
- 2) メインの授業及び重要な必修授業の担当教員は、通訳もしくは翻訳の実戦経験がある教員の割合が70%を下回らないこと。翻訳担当教員は30万字以上の正式な翻訳業務を行った経験を有すこと、通訳担当教員は20回以上の公式の場での逐次もしくは

同時通訳経験を有すこと。

- 3) 一定人数の翻訳通訳実務者を兼任講師として配置すること。

しかし、現実には MTI 担当講師は外国語担当教員が行っているケースが多く、なかには通訳翻訳経験がないものの、学内の事情からコースを担当せざるを得ない教員も少なくない。朱によれば、外部の実務者を招聘するにも、アカデミックの給与では実務者が不満を感じるため、兼任講師の確保が難しいとの現実があるという（朱波, 2016, p. 105）。そのため、上記3項目の条件を満たせる大学はほぼ大都市圏に限られると推察できる。北京語言大学での MTI コースは、筆者が訪問した 2016 年 11 月の時点で、呉副教授が実務経験者兼博士号学位取得済の教員としてコース運営を担当し、もう 1 名日本文学の専門家教員、外部招聘の講師として日本語ネイティブの講師の計 3 名が日中通訳コースを担当していた。日本語ネイティブの実務者教員の確保は非常に困難で、現在の外部講師は他大学教員からの紹介で採用したものの、首都の重点大学である北京語言大学でさえも実務者としての講師の確保が課題である、とのことであった。

日本で現在通訳業務に従事している日中通訳者は日本語ネイティブと中国語ネイティブがほぼ半々であるが（平塚, 2015, p. 8）、中国において通訳業務に従事する通訳者は、大半が中国語ネイティブである。中国在住の日本語ネイティブの通訳者は社内通訳者が多くを占めている。また、多くが北京、上海、広州などの大都市に居住しており、地方都市の大学が実務通訳者に授業を依頼することは容易ではない。

また、MTI コースでは修士論文提出が単位として組み込まれているため、通訳実務家だけでは論文指導ができないケースがみられ、研究成果を有する研究者を兼ねていなければ、通訳翻訳実務を教えられても研究指導ができないという問題が存在する。MTI 設置条件を満たすため、どの大学においても人材確保に苦労して

いるようである。先述した呉副教授も、「通訳実務経験者の教員の確保が難しい」と語っている。

北京語言大学では毎年、集中講義の形式で、実務経験者の大学教授を招聘し、日中通訳コースの実技授業と講演を行っている。しかしながら、日本語への訳出を担当していた日本人の講師陣は現在定年期を迎えている。日本においても中国においても、これまで語学教育の教員の育成は大学院で行ってきたため人材は豊富であるが、日中通訳を授業できる教員の育成は、かつて院では行われてこなかった。近年いくつかの大学院ではその試みがなされているが、英日の通訳教員養成と比較すると日中通訳教員の養成はいまだ道半ばであるといえよう。中国もまた同様の問題を抱えている。

4.3. 実務経験の構築、インターンシップ

北京語言大学の日中通訳コースでは、「実践活動」が要取得単位として組み込まれている。そのため、実務経験を積む実践活動として、外部講師を招聘して講演会を行い、その講演を院生に同時通訳させる試みを行っている。

2016 年 11 月には筆者も再訪し、「日中通訳者の規範意識とその要因」をテーマに講演を行った。会場には 2 人用通訳ブースが 6 部屋あり、M1 から M3 まで計 12 名の院生が通訳を担当した。訳出方向は基本的に日本語から中国語だったが、一部講演内容と質疑応答は中国語から日本語への訳出となった⁷。

同様の講演を前期、後期ともに数回異なるテーマで行っているが、すべて大学校内で行うため、呉副教授としては、今後は企業などで行うインターンシップ先を開拓し、外部での実践機会を増やしたい意向を示していた。北京では日系企業の代表所も多く存在しており、例えば JETRO などの機関を通じてインターンシップ先の開拓は可能となるだろう。後の就職先を見据え、実践活動の場を開拓していくことが望まれる。

5. おわりに - 日中間学術・教育交流の可能性

以上、本稿では中国が重視する通訳翻訳言語サービス関連の国策と現状、そしてその国策を支える MTI 制度の問題点、特に政策と教育現場での現状の乖離を指摘した。MTI コースを円滑に運営していくには、実務教育と研究指導が担当可能な教員の確保が必須だが、教員の質の確保の難しさは MTI を設置する大学が増えるにつれ、より深刻となっている。むしろ中国当局も傍観しているだけではなく、中国当局者が中心となり、今後何らかの対策を講じるであろう。例えば、2017 年 11 月 18 日には「2017 京津冀高校翻译硕士专业教育发展研讨会(北京、天津、河北地域大学 MTI 教育発展シンポジウム)」が MTI 担当教員、通訳翻訳サービスユーザーである企業人の代表などが参加して北京語言大学で開催されるなど、2017 年後半には各地で今後の MTI コースの在り方を討論するシンポジウムが開かれている。

今日の日本では、外国語大学だけではなく、本学のように国際教養学部において通訳演習科目が行われている。同様に実務家通訳者として大学で教鞭を執る教員は、現在多くが英語と日本語間の通訳者であるが、中国語や他の言語でも少しずつではあるが増えている。大学や学術機関での交流プログラムの一環として、通訳翻訳領域の外部講師派遣制度を導入し、中国と日本において通訳実務家教員が相互訪問し、双方で実践の講義を行うことが可能となれば、中国での実務家教員不足の問題解決の一助となり、日本の教員、研究者側も、アジアまたは中国における通訳翻訳の現状を理解する機会となり、日中双方にとってもメリットは大きい。中国が今後国策である一帯一路政策を展開していくためには、中国と関連諸国間でより緊密なコミュニケーションプラットフォームが必要となる。日本政府が中国の一帯一路政策にどう対峙していくのか、今後の動向は現時点では不透明だが、MTI コースを日中間の学術・教育交流の場として一帯一路政策に寄与し、存在感をアピール

することも一策ではないだろうか。

明年、筆者自身が北京語言大学での集中講義を担当予定であるが、このような相互交流を通して双方でさらに意見交換を行い、今後の通訳領域における学術・教育交流のプログラムを検討し提案していきたい。

付記

本稿は、北京語言大学の吳珺副教授からご協力を頂いた。ここに感謝の意を示したい。

¹ 中国語の「翻訳」には通訳と翻訳の両方の意味が含まれる。また、名称に「規範」という用語を用いているが、ここでは、「規則」の意味で使われている。

² 日本規格協会によれば、2015 年に ISO17100 が、翻訳サービスの品質及び引渡しに直接影響を及ぼす翻訳プロセスのあらゆる側面に対する要求事項を規定した国際規格として発行され、日本においても品質の高い翻訳サービスに必要な、コアプロセスの管理、翻訳者等の資格・力量に関する最低限の要求事項、資源の可用性及び管理、その処置について翻訳サービス提供者を対象に規定されるようになり、翻訳者に関しては人的・技術的資源の要求事項も規定が行われる方向にある（日本規格協会ホームページ <https://shinsaweb.jsa.or.jp/MS/Service/ISO17100>）。通訳者に関しての認証は 2017 年 8 月現在協議中となっている。

³ 一人民元は約 17 円（2017.8 月現在）。

⁴ 当日の様子は下記の URL を参照のこと。
<http://aptif8-cn.tac-online.org.cn/index.htm>

⁵ 中国で隔月に発刊されている通訳翻訳学術誌の名称。そのほか『東方翻訳』『科技翻訳』など数種の学術誌が定期的に発刊されている。

⁶ 2007 年公布の《关于申报开展翻译硕士专业学位教育试点工作的通知》による。

⁷ 当日の様子は下記の URL を参照のこと。
<http://mp.weixin.qq.com/s/vN0s5c8lECMcU1wSTMAgVA>

引用文献

- 何剛強 (2016). 「“四重忧患” 伴 “三关失守” - 我国翻译专业研究生教育何去何从?」『上海翻译』. 1-5 頁, 上海市科技翻译学会.
- 平塚ゆかり (2015). 『日中通訳者の規範意識とその形成要因』立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科博士学位論文 [未刊行].
- 平塚ゆかり (2016). 「第八届亚太翻译论坛 8th Asia-Pacific Translation and Interpreting

- Forum 報告」『通訳翻訳研究への招待』16号, 166-169 頁, 日本通訳翻訳学会.
- 仲伟合 (2014). 「我国翻译专业教育的问题与对策」『中国翻译』2014 年第 4 号, 40-44 頁, 中国翻译协会.
- 朱波 (2016). 「MTI 教师的职业化 - 以近三年全国 MTI 研究教育研究项目为例」『外语教学』第 37 卷 2 期, 105-108 頁, 西安外国语大学.